

平成29年度

全国学力・学習状況調査 壬生町全体の調査結果

I 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのよう取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

II 調査の対象とする学校及び児童生徒

- 壬生町立小学校 第6学年児童
- 壬生町立中学校 第3学年生徒

III 調査実施日 平成29年4月18日(火)

IV 調査対象学年及び調査事項

- 小学校 第6学年 「国語A」「国語B」「算数A」「算数B」「学習状況」
- 中学校 第3学年 「国語A」「国語B」「数学A」「数学B」「学習状況」

V 調査内容

- 教科 A問題

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など（主として「知識」に関する問題）を中心とした出題

- 教科 B問題

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容（主として「活用」に関する問題）を中心とした出題

- 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

VI 学年・教科ごとの調査実施児童生徒数

	国語A	国語B	算数・数学A	算数・数学B
小学校第6学年	345人	344人	345人	346人
中学校第3学年	366人	366人	360人	360人

Ⅶ 本調査の実施に関する壬生町教育委員会の考え方

- 1 本調査は、各学校が児童生徒の学力・学習状況を的確に把握し、指導方法の工夫改善に役立てるために積極的に活用を行う。
- 2 本調査は学校間、児童生徒個人の序列化や比較を行うものではない。
- 3 壬生町教育委員会は、文部科学省の方針にしたがい、本町及び全小中学校の結果を一括公表することは行わない。

Ⅷ 全国学力調査 壬生町全体の調査結果の概要

○小学校の状況

【国語A（主として「知識」に関する問題）】

壬生町全体の結果は、国の結果よりやや高い状況である。さらなる学力の向上のために、学習指導要領の領域「話すこと・聞くこと」について、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けさせる必要がある。

【国語B（主として「活用」に関する問題）】

壬生町全体の結果は、国の結果とほぼ同じ値である。さらなる学力の向上のために、学習指導要領の領域「読むこと」「書くこと」について、知識・技能を活用する力を身に付けさせる必要がある。

【算数A（主として「知識」に関する問題）】

壬生町全体の結果は、国の結果より高い状況である。さらなる学力の向上のために、学習指導要領の領域「数と計算」「数量関係」について、基礎的・基本的な知識・技能をさらに身に付けさせる必要がある。

【算数B（主として「活用」に関する問題）】

壬生町全体の結果は、国の結果よりやや高い状況であるが、学習指導要領の領域「量と測定」「図形」について、知識・技能を活用する能力を身に付けさせる必要がある。

○中学校の状況

【国語A（主として「知識」に関する問題）】

壬生町全体の結果は、国の結果よりやや低い状況であり、学習指導要領の領域「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」について、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けさせる必要がある。

【国語B（主として「活用」に関する問題）】

壬生町全体の結果は、国の結果とほぼ同じ値である。指導方法の改善を行い、学習指導要領の領域「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」について、活用する力を身に付けさせる必要がある。

【数学A（主として「知識」に関する問題）】

壬生町全体の結果は、国の結果よりやや低い状況であり、学習指導要領の領域「数と式」について、基礎的・基本的な知識を身に付けさせる必要がある。

【数学B（主として「活用」に関する問題）】

壬生町全体の結果は、国の結果よりやや低い状況であり、学習指導要領の領域「図形」「資料の活用」について、活用する力を身に付けさせる必要がある。

Ⅸ 学力調査結果の分析と指導の改善策

○小学校

【国語A（主として「知識」に関する問題）】

互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら、進行に沿って話し合うことができる。
(設問番号1)

・司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの考えの共通点や相違点を整理する

グループや学級全体の問題解決などに向けて、司会者や提案者、参加者などの役割を決めて話し合い、より一層豊かな相互交流を図ることができるようにすることが重要である。その際、個人やグループの意見の共通点や相違点を整理し、児童一人一人の考えを反映させながら、学級全体として一つの考えに集約することや、互いに意見を述べ合う中で、各自の考えを広げたり深めたりできるようにすることが大切である。また、互いの考えが相違する場合には、それぞれの考えがどのようなことに基づいているのかということに着目して話し合いをすすめることができるようにすることも大切である。

【国語B（主として「活用」に関する問題）】

自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図をとらえることができる。
(設問番号3二)

・物語を読んで感想を伝え合い、自分の考えを広めたり深めたりする

ものの見方や考え方を広げるために、物語を読んで感想を伝え合い、一人一人の感じ方に違いがあることに気づき、自分の考えを広げたり深めたりすることができるようにすることは重要である。具体的には、各自考えたことが、どのように共通していたり相違したりしているのかなどを明らかにしながら交流する機会を設定することが考えられる。その際、自分の感想を明確に伝えるには、感想を表す言葉を増やしておくことが大切である。また、感想が本や文賞のどの叙述に基づいているのか、自分が現実に経験したこと、普段考えていることや関心のあることなどと、どのように結び付いているのかなどを説明することも大切である。

物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめることができる。
(設問番号3三)

・物語を読み、叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる

日常の読書においては、今までの読書経験を踏まえ、叙述と自分の体験や他者の解釈とを結び付けたり、他の作品と比べたりして読むことで、より豊かに想像することができると考えられる。叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめるためには、一つの場面の叙述だけを対象とするにとどまらず、複数の場面を比較したり、物語全体に広がっている複数の叙述を関係づけたりして読むことが重要である。さらに、高学年においては、場面の展開に沿って読みながら、感動やユーモア、安らぎなどを生み出す優れた叙述に着目して自分の考えをまとめることができるように指導することが大切である。また、象徴性や暗示性の高い表現や内容、メッセージや題材を強く意識させる表現や内容などに気づき、自分の表現に生かして感想などをまとめることができるように指導することも考えられる。

【算数A（主として「知識」に関する問題）】

加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができる。（設問番号2（3））

・計算の順序についてのきまりを、具体的な場面と結びつけて理解できるようにする

計算の順序についてのきまりとは、「①式は、普通、左から純に計算する」「②式に（ ）があるときは、（ ）の中を先に計算する」「③乗法、除法を、加法、減法より先に計算する」である。これらのきまりは、単に暗記するのではなく、具体的な場面と式の表現とを結びつけながら理解できるようにすることが大切である。本設問は③のきまりについての理解をみる問題である。

指導に当たっては、例えば、「50円の商品を一つと、150円の商品を二つ買ったときの代金を求める」場面を設定し、 $50+150\times 2$ と立式した上で、計算の順序について具体的な場面と結びつけながら説明し合う活動が考えられる。その際「 $50+150\times 2$ 」を「 200×2 」と誤って計算した例を提示して、「 200×2 」の式が場面にそぐわない式になっていることを確認することも考えられる。

【算数B（主として「活用」に関する問題）】

直線の数とその間の数の関係に着目して、示された方法を問題場面に適用することができる。（設問番号2（2））

・日常生活の事象を数理的に捉えることができるようにする

日常生活の事象を数理的に捉える機会を積極的に設定することで、算数の有用性を実感できるようにすることが大切である。例えば、本設問で扱った「3等分する点を見つける方法」を、数理的に捉えると、平行な直線の性質や倍数、約数の意味などとの関連が見えてくる。また、通路を挟んで2列と3列にわかれた、新幹線の車両の座席の配置を数理的に捉えることもできる。この座席の配置では、何人グループであっても一人で座ることがない。このことは、数理的には、「2以上の自然数であれば、2の倍数と3の倍数の和として表すことができる」と捉えることができる。このような捉え方に多く触れることで、日常生活の事象を数理的に捉えようとする態度を育てることができると考えられる。

仮の平均を用いた考えを解釈し、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を、言葉や式を用いて記述できる。（設問番号3（2））

・測定値の平均を求める式の意味を理解し、工夫して求めることができるようにする

測定値の平均を求める学習では、測定した結果について、平均を用いて妥当な数値を示すことができるようにすることをねらいとしている。測定値の平均を求める際には、形式に計算するだけでなく、具体的な場面において、測定値の平均を求める式の意味を理解できるようにすることが大切である。また、平均がおよそどのくらいになるのかを見積もったり、能率的に処理するために工夫して計算したりすることが重要である。そのための一つの方法として、仮の平均の考え方を用いることができる。例えば、本設問の場面を用いて、仮の平均の考え方について設定した基準と数値が表す意味を、グラフと式、言葉などを関連づけながら説明する活動が考えられる。

身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量に近いものを判断し、その判断の理由を言葉や式を用いて記述できる。(設問番号5(2))

・適切な判断のために、基準量・比較量・割合の関係を的確に捉え、判断の理由を数学的に表現できるようにする

日常生活の中には、算数で学習したことを活用して、数理的に処理し合理的に判断できる場面がある。割合や百分率は社会科や家庭科の学習などにも用いられており、事象を適切に解釈するために必要な知識・技能である。

本設問は、示された情報と場面から、基準量と比較量を捉えることができれば割合を求めることができる。同様に、基準量と割合を捉えることができれば比較量を、比較量と割合を捉えることができれば基準量を求めることができる。そのために、示された情報と場面を図や言葉などに表し、数量の関係を的確に捉えることが大切である。例えば、基準量、比較量、割合がそれぞれ何に当たるのかを捉えるために、「最小の満月の直径」と「最大の満月の直径」の関係を表す図を描く活動が考えられる。また選んだ硬貨の直径の方が近いと判断した理由を、数量の関係を表す図と、図から解釈できる演算に着目して説明する活動も考えられる。

○中学校

【国語A(主として「知識」に関する問題)】

文脈に即して漢字を正しく書くことができる。(設問番号9一)

・日常的な漢字の学習

漢字の指導においては、正確に読み書きできるようにすることに加え、漢字の特徴を理解して適切に使えるようにすることが大切である。そのためには、新出の漢字だけでなく、小学校で学習した学年別漢字配当表に示されている漢字を、各教科等で積極的に使用するよう指導することが重要である。また、文章を音読することで読めない漢字や漢字の読み間違いに気付くようにするとともに、辞書を引いて確認することも重要である。

語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことができる。(設問番号9三)

・場面に即した語句・語彙指導の工夫

語幹を磨き、語彙を豊かにするためには、辞書や資料集などを活用しながら、着目した言葉について複数の類義語で言い換えたり、ことわざや慣用句、故事成語などの表現に置き換えたりすることが大切である。敬語や接続詞については、小学校での学習を踏まえ、具体的な相手や場面を意図的に設定して指導したり、学校生活の中で機会を捉えて指導したりすることが大切である。同音異義語については、読み方だけでなく漢字一字一字の意味を確認しながら熟語の意味について考えることが大切である。

事象や行為などを表す多様な語句について理解している。(設問番号9五)

・多様な語句・語彙指導の工夫

日常生活や社会生活の中で使われる、事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、話や文章で用いる語彙を豊かにしようとするのが大切である。例えば、本設問のように学校生活の中での話合いなど具体的な場面を想定し、その場の状況に応じた適切な言葉について考える学習活動が考えられる。また、各教科等の学習や読書活動をする中で出会った多様な語句を取り上げて指導することも効果的である。

行書の特徴を理解している。

(設問番号 9 六)

・楷書と行書のそれぞれの特徴を踏まえた指導の工夫

行書の基礎を学習する段階では、同じ文字の楷書と行書とを比較し、筆順や運筆などの違いについて理解するとともに、それらを生かして行書で書く学習活動が効果的である。また、学校生活において、メモやノート、会議録、掲示物などを書く際に、書く目的や必要に応じて書体を選んで書くなど意識的に書写の学習成果を生かすように指導することも重要である。

【国語B（主として「活用」に関する問題）】

表現の仕方について捉え、自分の考えを書くことができる。

(設問番号 1 三)

・根拠を明確にして感じたことや考えたことを書く

文学的な文章を読んで、感じたことや考えたことを書く際には、なぜそのように感じたのか、文章のどこからそのように考えたのかなどについて、根拠を明確にして書くことが大切である。その際、比喻や反復などの表現の技法についての知識を生かすなどこれまでの学習を踏まえるように指導することが重要である。例えば、文章を読んで心に残った言葉や文、感想などをノートに書き留めておき、それを基にしてペアやグループで交流する学習活動が考えられる。また、図書館だよりや本のポップ、書評などから得た情報を参考にして、自ら読書を進めていくことができるように指導することも大切である。

相手の反応を踏まえながら、事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように工夫して話すことができる。

(設問番号 2 三)

・交流を通して振り返り、分かりやすく伝わるように工夫して話す

スピーチなどをする際に、自分の伝えたいことを聞き手に分かりやすく伝えるためには、事実や事柄と、それに対する自分の考えや感想などとの関係に注意して話すことが大切である。また、何のために話すのかという目的や、聞き手はその話題についてどのような点に関心があり、どのような情報をもっているかなどの状況によって話し方が変わってくることに留意する必要がある。実際にスピーチなどをする場面では、聞き手から質問したり、内容や伝え方について助言し合ったりする場を設けることで、表現の仕方や聞き方を互いに学び合うことができる。その際、ICTを活用することも効果的である。例えば、スピーチをする様子を録画・録音して話し方などを振り返る学習活動が考えられる。

【数学A（主として「知識」に関する問題）】

数量の関係を文字式で表すことができる。 (設問番号2 (1))

- ・事柄や数量の関係を捉え、その関係を文字式に表すことができるようにする

事象における数量の関係や法則などを見いだして文字式で表したり、その文字式の意味を読み取ったりすることができるようにするために、具体的な数や言葉を使った式を利用して数量の関係を捉え、文字式で表したり、その意味を解釈したりする活動を取り入れることが大切である。

等式を目的に応じて変形することができる。 (設問番号2 (4))

- ・ある文字について解くことの意味を理解し、等式を変形することができるようにする

式変形の目的を明確にした上で、等式の性質などの根拠に基づいて正しく変形する場面を設定することが考えられる。本設問を使って授業を行う際には、数量関係が $x + 4y = 1$ で表される具体的な場面を設定し、式変形の目的を明確にして x や y について解く活動を取り入れることが大切である。その際、根拠を明らかにして等式を変形する活動を取り入れることが考えられる。

具体的な場面で、一元一次方程式をつくることができる (設問番号3 (2))

- ・着目する数量を見だし、一元一次方程式をつくることができるようにする

問題解決の場面で数量の関係を捉え、一元一次方程式をつくることができるようにするために、ある特定の量に着目して線分図や表などに数量の関係を表し、等しい関係を見いだす場面を設定することも考えられる。

本設問を使って授業を行う際には、生徒の人数を x 人とするとき、「折り紙の枚数はどのように表せるか」を問いかけ、折り紙の枚数について、線分図などを利用して、数量の関係を視覚的に捉えながら、 $6x + 16$ と $8x - 4$ の2通りに表されること、そしてそれらが等しい関係にあることを確認する場面を設定することが考えられる。

二元一次方程式の解の意味を理解している。 (設問番号3 (3))

- ・二元一次方程式の解の意味を理解できるようにする

様々な数を文字に代入し、二元一次方程式を成り立たせる文字の値の組を探す活動を取り入れることが考えられる。例えば、二元一次方程式 $x + 2y = 3$ を取り上げ、 $x = 1$ 、 $y = 1$ であれば成り立つが、 $x = 1$ 、 $y = 2$ では成り立たないことを、 $x + 2y$ の式の値を基に判断できることを確認する場面を設定することが考えられる。その上で、二元一次方程式 $x + 2y = 3$ の x に様々な数を代入して y についての方程式をつくり、解となる x 、 y の値の組を求める活動を取り入れることが考えられる。この活動を通して、二元一次方程式の解となる x 、 y の値の組は無数にあることを理解できるようにすることが大切である。

錯角の意味を理解している。

(設問番号6 (1))

・2直線に1直線が交わってできる角の位置関係について理解できるようにする

2直線に1直線が交わってできる8つの角で、互いに同位角や錯角の関係になっている角を見いだす活動を取り入れることが考えられる。例えば、平行でない2直線に1直線が交わる場合にできる8つの角と、平行な2直線に1直線が交わる場合にできる8つの角について、それぞれ位置関係を捉える活動を取り入れることが大切である。その上で、それぞれの角の大きさを測定し、同位角や錯角が等しくなるのは2直線が平行な場合だけであることを、実感を伴って理解できるようにすることが大切である。

作図の手順を読み、根拠として用いられている平行四辺形になるための条件を理解している。

(設問番号7 (2))

・平行四辺形になるための条件を具体的な場面で用いることができるようにする

平行四辺形の作図の手順に用いられている条件や、具体物にみられる平行四辺形になるための条件を指摘する活動を取り入れることが考えられる。

本設問を使って授業を行う際には、作図の手順から、四角形 $ABCD$ が平行四辺形になるための条件である「2組の向かい合う辺がそれぞれ等しい」を満たしていることを確認する場面を設定することが考えられる。その際、手順③でとった点 D は、①でかいた円と②でかいた円との交点であることから、「 $BC=AD$ 」と「 $AB=DC$ 」を読み取る活動を取り入れることが大切である。

関数の意味を理解している。

(設問番号9)

・様々な事象の考察を通して、関数の意味を理解できるようにする

事象の中にある2つの数量の変化や対応の様子を調べ、それらの関係を見いだす活動を取り入れることが考えられる。その際、独立変数と従属変数との違いを意識して「…は…の関数である」という形で表現する場面を設定することが大切である。

本問題を使って授業を行う際には、縦の長さを決めると面積がただ1つに決まることを確認し、「面積は縦の長さの関数である」という形で表現する活動を取り入れることが考えられる。また、一方の値が決まっても他方の値がただ1つに決まらないような関係を取り上げ、関数の意味の理解を深めることも考えられる。

【数学B (主として「活用」に関する問題)】

2つの図形の間を回転移動に着目して捉え、数学的な表現を用いて説明することができる。

(設問番号1 (2))

・事象の特徴を的確に捉え、数学的に説明できるようにする

日常的な事象において、数量や図形に着目して見いだした事象の特徴を、数学的に表現できるようにするために、前提とそれによって説明される結論の両方を説明する場面を設定することが考えられる。

本設問を使って授業を行う際には、四角形 $ABCD$ の模様はどのような回転移動によって、四角形 $GBEF$ の模様と重なるかを捉える場面を設定することが考えられる。そ

の際、前提とそれによって説明される結論を「四角形A B C Dを回転移動した図形は、四角形G B E Fと重なる。」のように表現することに加えて、「四角形A B C Dを点Bを回転の中心として、時計回りに120°の回転移動をした図形は、四角形G B E Fと重なる。」のように、回転の中心の位置、回転の向き、回転角の大きさについて明確にし、数学的に表現できるようにすることが大切である。

事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。

(設問番号3(2))

・問題解決のために数学を活用する方法を考え、説明できるようにする

様々な問題を数学を活用して解決できるようにするために、問題解決の方法に焦点を当て、何をどのように用いればよいかを明らかにできるようにすることが大切である。その際、表、式、グラフなどの「用いるもの」とその「使い方」について説明する場を設定することが考えられる。

本設問を使って授業を行う際には、貯水量が経過した日数の一次関数であるとみなしていることを確認した上で、グラフを用いる場合には、点Aから点Fまでの点にできるだけ近い直線をひくことと、y座標が1500のときのx座標を読むことを明確にして説明する活動を取り入れることが考えられる。

筋道を立てて考え、証明することができる。

(設問番号4(1))

・事柄が成り立つ理由を筋道を立てて考え、証明することができるようにする

結論を導くには何がわかればよいかを明らかにしたり、与えられた条件を整理したり、着目すべき性質や関係を見いだしたりする活動を取り入れることが考えられる。例えば、結論から仮定、仮定から結論の両方向から考えて証明する場面を設定することが考えられる。本設問を使って授業を行う際は、 $\angle B A D = \angle C B E$ を導くために $\triangle A B D \equiv \triangle B C E$ を示せばよいことを明らかにし、 $\triangle A B D$ と $\triangle B C E$ で対応する辺の長さや角の大きさについてわかることを整理したり、合同を示すために必要な関係を見いだしたりするなどして証明できるようにすることが考えられる。

付加された条件の下で、図形の性質を用いることができる。(設問番号4(2))

証明した事柄を用いて、新たな性質を見いだすことができる。(設問番号4(3))

・ある条件下で成り立つ性質や関係に着目し、図形を考察することができるようにする

ある条件の下でいつでも成り立つ性質や関係を見いだすことができるようにするために、条件を保ったまま図形の形を変えながら観察し、辺や角について変わらない性質を見いだす活動を取り入れることが考えられる。

設問(3)を使って授業を行う際には、問題で与えられた最初の条件を保ったまま図形の形を変えながら観察し、辺や角について考察する活動を取り入れることが考えられる。その際、例えば、点D、Eの位置を動かしても、 $\triangle A B D$ と $\triangle B C E$ が合同だから、 $\angle B A F = \angle C B F$ なので、 $\angle B F D$ の大きさは変わらないことを見いだせるようにすることが大切である。また、設問(2)のような特定の場面をいくつか設定し、帰納に

よって一般的に成り立つ事柄を予想する活動を取り入れることも考えられる。

与えられた情報から必要な情報を選択し、事象に即して解釈することができる。
(設問番号5(2))

・資料を整理して情報を読み取り、それを基に資料の傾向を判断できるようにする

収集した資料を目的に応じた度数分布表やヒストグラムで表して分布の様子を捉えた上で、資料の傾向を表す代表値などのふさわしい値を検討し、それらを基に判断する場面を設定することが考えられる。例えば設問(1)で度数分布表の見方を確認した上で、設問(2)のように「全校生徒の女子の中で、若菜さんの1週間の総運動時間より長い人が多いのか、短いのか」を判断するために、1週間の総運動時間の分布を捉えた上で、どの代表値がふさわしいかを検討する活動を取り入れることが考えられる。この場面では、全校生徒の女子の1週間の総運動時間を長さの順に並べたとき、若菜さんの1週間の総運動時間が中央の値より長いのか短いのかを比べればよいことを確認し、中央値が適切であることを判断できるようにすることが大切である。

資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。
(設問番号5(3))

・判断の理由を数学的な表現を用いて説明できるようにする

資料の傾向を的確に捉えて判断できるようにするために、資料の分布の様子を捉え、説明する場面を設定することが考えられる。例えば本設問のように1週間の総運動時間が420分以上の女子は、420分未満の女子より体力テストの合計点が高い傾向にあるかどうかを2つの分布の比較から検討し、判断する場面を設定することが考えられる。なお、総度数の異なる2つの集団を扱う際には、相対度数を用いると各階級ごとの比較が可能になることや、相対度数を使った度数分布多角形を用いると2つの資料の分布の特徴を捉えやすくなることを確認する場面を設定することも考えられる。その上で、資料の2つ分布の特徴を捉え、根拠を明確にして事柄が成り立つ理由を説明する活動を取り入れることが考えられる。

X 全国学習状況調査 壬生町全体の調査結果の概要

「学習状況調査」については、全国の平均と比較して、壬生町の児童生徒が優れていると思われる項目を○、今後の指導・改善が必要であると思われる項目を▲で示した。

【小学校】

- 携帯電話やスマートフォンをもっていない。
- 家の人と学校での出来事について話をする。
- 学校に行くのは楽しいと思う。
- 今住んでいる地域の行事に参加している。
- 外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたい。
- 5年生までに受けた授業のはじめに目標(めあて・ねらい)が示されていたと思う。
- 5年生までに受けた授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまと

めを書いていたと思う。

- 算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている。
- ▲ 授業で学んだことを、ほかの学習や普段の生活に生かしている。
- ▲ 5年生までに受けた授業では、先生から示される課題や、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいた。
- ▲ 5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた。
- ▲ 読書は好きである。
- ▲ 調査問題の解答時間は十分であった（国語A・B、算数A・B）。

【中学校】

- ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。
- 将来の夢や目標を持っている。
- 学習塾（家庭教師を含む）で勉強をしている。
- 家の人と学校での出来事について話をする。
- 家の人と将来のことについて話す。
- 携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っている。
- 家で、学校の授業の復習をしている。
- 学校に行くのは楽しい。
- 学校で、友達に会うのは楽しい。
- 学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある。
- 地域社会などでボランティア活動に参加したことがある。
- 友達との約束を守っている。
- 人が困っているときは進んで助けている。
- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。
- 1，2年生のときに受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていた。
- 1，2年生のときに授業のはじめに、目標（めあて・ねらい）が示されていた。
- 1，2年生のときに受けた授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていたと思う。
- 読書は好きである。
- 国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いている。
- 数学ができるようになりたいと思う。
- 数学の授業で問題の解き方や考えが分かるようにノートに書いている。
- ▲ 調査問題の解答時間は十分であった（国語A・B、算数A・B）。